

世界で通用するエンジニアへの第一歩～アメリカ・イースタンワシントン大学に留学して～

学生プロフィール

- 【所属】 システムデザイン学部システムデザイン学科
航空宇宙システム工学コース
- 【学生氏名】 市川 サラ
- 【派遣先大学】 イースタンワシントン大学(アメリカ)
- 【派遣時の学年】 学部 3 年
- 【留学期間】 9 か月間



留学中のベストショット！
大学寮で色々な国の友人とそれぞれの国の料理を食べました

◇ 私が留学を志したきっかけ

私が留学を決めるきっかけとなったのはテレビなどでアメリカの大学での授業の様子を見て学生の積極性や教授の授業の教え方が日本とは異なり、そのような環境でぜひ学んでみたいと感じたからです。留学前の準備としては理系単語を覚えたり、インターネットで英語の授業を見たりして英語の授業に慣れるようにしました。このおかげでいきなりの英語の授業でもスムーズに適応できたと思います。

◇ 実習が多いアメリカの大学

授業については私の専攻の航空宇宙工学科目がなかったため電気工学と機械工学の授業をメインに履修し、エンジニアとしての幅広いフィールドの知識を得ることができました。生徒がどんどん発言し、授業がインタラクティブであること以外に日本の大学と違うと感じたところは、座学ばかりでなく実習がかなり多いことでした。例えばロボットの授業では、私の班はグループで T シャツにアイロンプリントをするロボットを製作しました。流体力学の授業では実験をしてそれについて報告書の代わりにユーザーマニュアルを製作するという面白い課題が出たことが印象に残っています。

せっかくアメリカにいるのでそこでしか取れないミリタリーサイエンスのクラスやスピーチのクラスも取りました。アメリカでは大半の大学ではクラスメイトの人種や年齢に多様性があり、幅広い年代・世界各国出身のクラスメイトの友達を作ることができます。



ミリタリーサイエンスのクラスメイトと一緒に
に参加したフォーマルなミリタリーボール

◇ 課外活動にも積極的にチャレンジ！

課外活動についてはクラブに参加したり、様々なことに挑戦したりしました。所属していたロケット部では1m以上のモデルロケットを自作しました。他にも教授にお願いして4年生の授業プロジェクトに特別に参加させて頂き、長さ12mものロケットを製作しユタ州でのロケットの大会で打ち上げました。

ボランティア活動にも積極的に取り組むようにしました。私が一番よくやったのは子供向けのサイエンスイベントの手伝いです。

図書館では数学のチューターのアルバイトをしました。英語で履歴書を書いて面接を受けること自体も初めてでしたし、更に英語で数学を教えるというなかなかできない経験ができ、これにより物事を論理的に説明する力がつきました。



ロケットの打ち上げを体験しました！

◇ 帰国後の自分

留学で日本語を全く使わない英語漬けの毎日を送ってきたので今では英語論文を読むことに抵抗がなくなりました。調査をするときには日本語の文献の2倍以上の資料を集めることができ、これは非常に役立っています。アメリカで授業中に発言することに慣れたため日本に帰ってからも疑問に思ったことはすぐに質問をするようにしています。

首都大の交換留学・派遣留学の提携大学は増加してきていて選べる幅は広がっています。大学は留学をしっかりとサポートしてくれます。ぜひ日本人の考え方とは違う環境で生活をしてみて、友達をたくさん作って、そこでの大学生活を送ってみてください。そして留学先でも色々なことにチャレンジする精神を大切にしてください。